

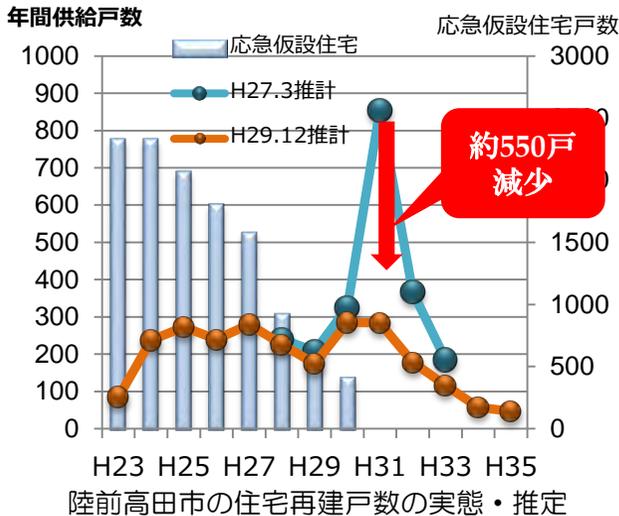
震災の教訓から 津波に強い市街地像を提案する

背景

- 北海道沿岸市町村では大きな津波被害が生じる危険性があります。
- 東日本大震災の復興過程での諸問題や経験を活かし、総合的な防災まちづくりを進めていく必要があります。

成果

1 東日本大震災の復興の現状調査 (例：陸前高田市住宅再建)



復興の長期化と人口流出により、度重なる復興計画の見直しや住宅再建数の減少

期待される効果

これらの知見を今後の研究開発に活かし、道内沿岸市町村の津波防災まちづくりを展開します。

協力機関：岩手県陸前高田市、陸前高田市建設業協会、宮城県気仙沼市、宮城県南三陸町

2 東日本大震災の復興事例と課題整理 (例：住宅・建築再建の類型化)



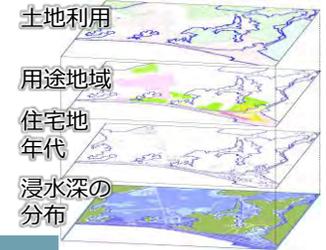
公共による防災集団移転だけでなく、民間開発、既存宅地、既存住宅を活用した多様な住まいを確保することにより、早期の復興が可能に。

3 総合的な津波防災まちづくりに向けて (評価・計画・技術)

○市町村別データベースの構築

○リスク・避難予測

○建築耐震技術・情報伝達システム等



- 防災・減災まちづくり
- 事前復興計画

震災の教訓を活かす！

評価・計画・技術開発などの観点から、取り組むべき内容を整理
→今後の研究開発に活用・展開



発災一ヶ月後の陸前高田市市街地